



命を大切に

いよいよ明日から夏休みです。しばらく会えない期間が続きますから、先生たちは皆さんの事を心配します。8月26日には元気な顔を見せてください。立場上、口にはしませんが、今号の記事の出来事があったので、私の心の隅には、勉強なんていいから、という気持ちすらあります。

さて、私には担任の時代から夏休み前に必ず書くと決めている「たより」があります（上級生はご存知ですよ）。当時の素直な気持ちが伝わるように、言葉遣いも昔のままずっと変えていません。校長らしくない部分もあるかもしれませんが、ご容赦ください。

それは、先生が先生になって初めての夏休みだった。元気に9月1日を迎えようと言って一学期を終えた。本当に元気のいいクラスだった。ところが9月1日に元気な顔は一つもなかった。交通事故で一人の仲間が夏休み中に亡くなってしまったのだ。その子は先生のクラスの子で、まだ背がちっちゃくて、かわいくて、でも芯の強い子だった。気持ちが優しくて、動物好きの子だった。先生が先生になって一番初めに名前を呼んだ女の子だった。先生は前の日に泊まりがけの研修から帰ってきて、その日はまだ眠っていた。朝8時頃かな、同僚の先生からの電話で起こされた。「今、ニュースみた?」「いいえ」「生徒が交通事故……」「えっ」頭の中というか耳の奥の方で変な音がして何も考えられなくなり、心臓がドキドキして息が苦しくなった。すぐに学校へ飛んでいった。自転車に乗っていてトラックにはねられたということだった。

そんな夏休みが明け、元気だったクラスは全く別のクラスのように沈んでしまった。その後、彼女の分まで頑張って生きようって決めて少しずつ明るさを取り戻しはしたけれど、元のようにはならなかったな。この事故は先生にとってすごいショックだった。その数カ月前、先生は祖父を亡くしたけれど、その時よりもずっとショックは大きかった。彼女のお母さんは何年か経っても、事故の話になると涙ぐんでしまった。先生はそんなお母さんを見るのもつらかった。

先生はもうあんな悲しい目にあいたくないし、君たちのお母さんやお父さんの悲しむ顔も見たくない。沈んだクラスもいやだ。だから、この夏休みの間、絶対に事故にあってはいけない。ケガや病気もダメだ。命を大切にしなさい。自分の命だけれど、今までにいろんな人が守ってくれた命だ。自分だけでここまで生きてきたわけじゃない。楽しい今があるのは周りのたくさんの人のおかげだ。そんな命を粗末になんかできないはずだ。自分が生まれた時のことをお家の人に聞いてみるといい。

(裏に続く)

きっと誰のお母さんもお腹の中で君たちを大切に育て、お父さんやまわりの人たちも大切に扱ってくれて君たちが生まれたはずだ。中には生まれてくるときに危うく死にそうだったという子もいたかもしれない。そんな、自分が生まれた時の話なんかを聞くと、きっと、命を大切にしなきゃ、って思うだろう。自分だけでなく、みんなそうやって生まれてきて育ってきたのだ。自分の命と同様、人の命も大切にしなければいけない。新学期には元気に学校に来てくれ。もし夏休み中に何かあったら必ず学校に連絡するんだぞ。

毎年、夏休み前に命の話をするとき、先生は必ず亡くなった彼女の話をする。でも、もしかしたらこれは彼女の死を利用してるのではないだろうか、彼女はこんなところで話されたくないのかもしれない、と思うこともある。お墓まいりに行くたびに、今年も話をさせてもらったよって報告してる。それで君たちが命を大切にしてくれるんなら、話させてもらおうと思ってる。今年も話させ（書かせ）てもらった。とても大事な話だから忘れないでいてほしい。

では、よい夏休みを。

【コロナ禍中特別追記】

コロナ禍^{もと}の下では、感染を広げないことが人の命を大切にすることにつながります。休み中も引き続き感染予防を心掛けてください。

土曜日、日曜日に緊急連絡が必要なときは学校携帯（ ）に連絡をしてください。

8/11～8/16は平日であっても学校は閉庁です。その間は所沢市教育委員会（ ）に連絡をしてください。